

第1章 プログラムの企画と体験活動の指導

1. 体験活動の意味

(1) 「経験」「体験」「体験活動」の意味の整理

1) 「経験」「体験」「体験活動」の定義

「経験」「体験」「体験活動」「体験学習」「体験教育」等々。体験活動に関する語句はいくつか用いられていますが、明確な定義があるとはいえません。

そこで、本ガイドブックでは、各語句を、中央教育審議会答申「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」（平成19年）で提示されている、以下のとおりに用いることとします。

<経験>

人間が実際に見たり、聞いたり、行ったりすることを広く指して用いている。

<体験>

経験のうち、経験する者の能動性や経験の内容の具体性に着目して、能動的な経験や具体的な経験を指して用いている。

<体験活動>

体験を通じて何らかの学習が行われることを目的として、体験する者に対して意図的・計画的に提供される体験を指して用いている。

2) 体験活動の意味

前述のとおり「体験活動」という語句には、教育的な意味が内包されているといえます。

つまり、指導者が、子どもたちの学習目的（教育目的）を設定し、その目的を達成するために、意図的・計画的に活動を提供する。この提供する活動が「体験活動」ということです。

例えば、子どもたちに「達成感を味わう」という「体験」をさせたいために（学習目的）、登山や野外炊事という「体験活動」を行うということです。言い換えれば、登山や野外炊事は、達成感を味わうという「目的」を達成するための「手段」ともいえます。

もちろん、登山や野外炊事を体験するという事、つまり、活動自体を目的とすることも考えられます。



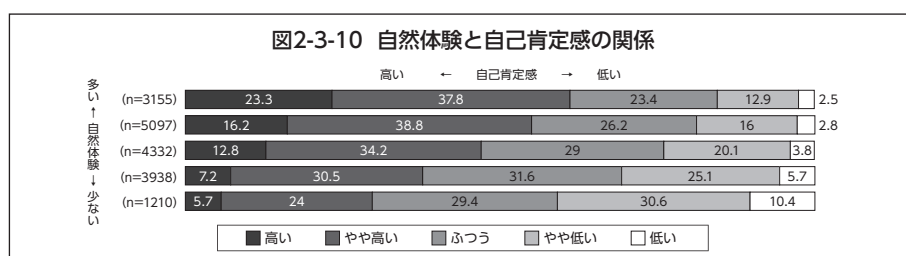
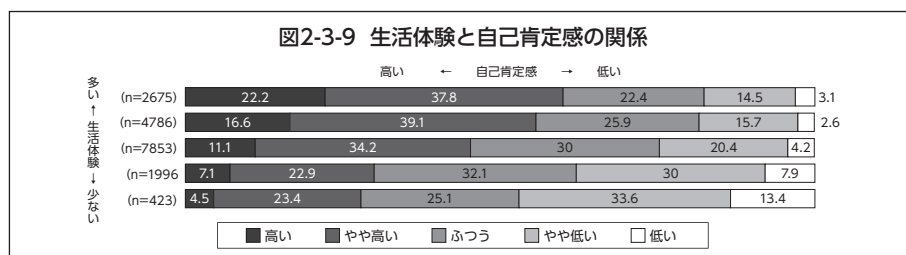
図 体験活動の要素

(2) 体験の意義

子どもたちの心豊かな成長にとって、体験がいかに重要であることを示した調査結果があります。

1) 青少年の自然体験・生活体験と自己肯定感

国立青少年教育振興機構が、全国の小学校4～6年生、中学校2年生、高校2年生に対して実施した調査によると、「ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったこと」「夜空いっぱいに輝く星をゆっくり見たこと」といった「自然体験」や、「ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと」「タオルやぞうきンを絞ったこと」といった「生活体験」が多い子どもほど、「自己肯定感」が高い傾向にあると報告しています。

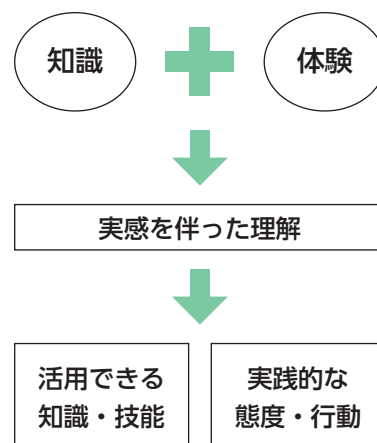
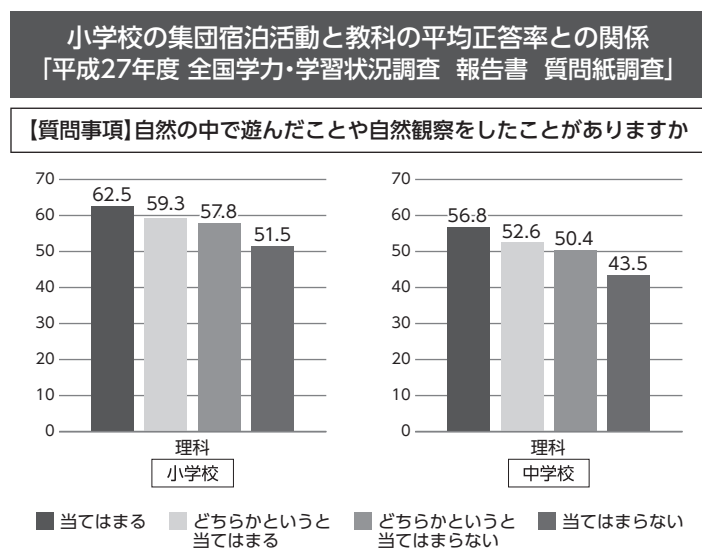


「青少年の体験活動等に関する実態調査」(平成26年度調査)
国立青少年教育振興機構平成28年5月

2) 自然体験と学力の関係

「平成27年度全国学力・学習状況調査」では、「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある児童・生徒ほど、平均正答率が高い傾向にある」と報告されています。自然の中で遊ぶことにより好奇心が育ち、理科を学ぶ意欲が高まったことがうかがえます。

また、知識に体験が加わることで実感を伴った理解になり、知識の定着や活用につながっていくといえるでしょう。



(3) 体験活動の目的

1) 目的の整理

「体験活動」では、どんな「目的」が設定できるのでしょうか。言い換えれば、「体験活動」によって、どんな教育的な効果が期待できるのかということです。

下図は、「自然体験活動の目的」を、「小学校学習指導要領『道徳』」の内容を参考に作成したものです（前掲の「山口徳地自然の家の教育機能」も同じように考えました）。

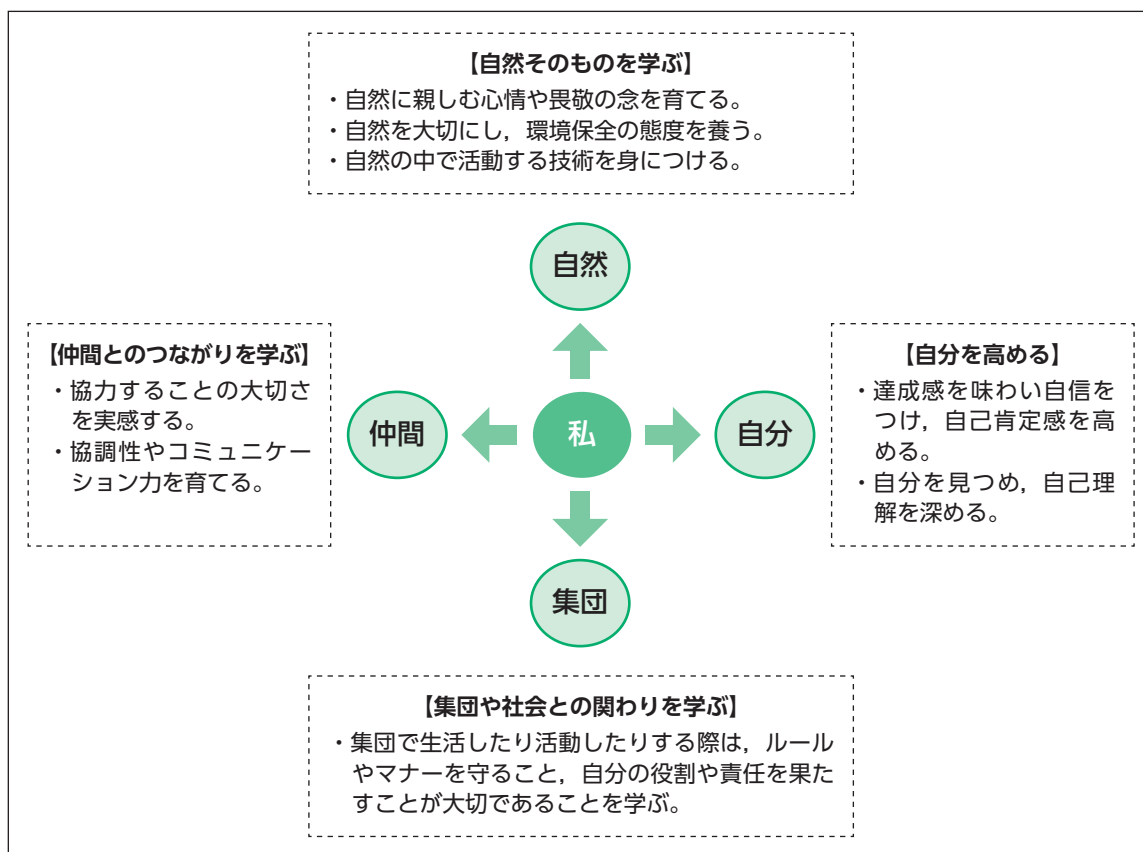


図 自然体験活動の目的

2) 「目的」と「目標」

「目的」と「目標」も、「体験」と「体験活動」と同じように混同されがちなので、下図のように整理しました。

「目的」は、抽象的に表されます。例えば、学校の集団宿泊活動やスポーツチームの合宿の場合、「仲間を思いやる力を育てる」や「学級のまとまり（チームワーク）を高める」といったことが目的として設定されます。

では、「仲間を思いやる力」や「学級がまとまる」とは、具体的にどんなことなのでしょう。子どもたちが、どんな言葉や行動がとれるようになったら、仲間を思いやる力がついたといえるのでしょうか。

このように、「目的」を、具体的に表現したものを、「目標」とします。また、「目標」として、具体的に表すことができると、体験活動によって得られた成果を測定する際の指標になり、「評価」する際の資料となります。

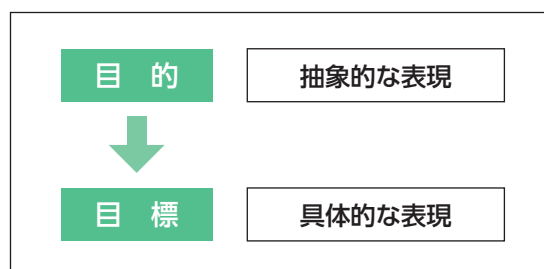


図 目的と目標の構造

(4) 体験学習

1) 「体験学習」とは

「体験活動」が、子どもたちの成長にとって重要であることが指摘され、その推進が求められているなか、敢えて、「体験学習」という言葉を用いる場合があります。「子どもたちが体験から学ぶことを大切にする」という考え方に基づいたものです。

2) 「体験学習」にするための留意点

① 「目的」を明確にし、「目的」に連動させて「活動」と「指導法」を組み合わせる

「体験学習」は意図的な学習活動です。活動の過程で、偶然に生じる学びも大切ですが、宿泊学習等を企画する者が、子どもたちに「どんな力を身につけさせたいのか」、「どんな力を高めたいのか」といった、目的を持つことが大切です。

そして、「目的」を達成するために適した「活動」と「指導法」を組み合わせ、プログラムを企画立案します。

② 「教える」のではなく、「気がつくこと」を促す

「体験学習」は、子どもたちが主体的に学ぶことを大切にします。指導者は、「知識・技術」を教えるばかりではなく、子どもたちが体験を通して、「気がつくこと」、「感じること」、「発見すること」を支援するという姿勢を持ちます。つまり、直接教えるのではなく、子どもたちが自ら考え・発見するように「仕掛け」をつくったり、促したりすることが求められます。

③ 「気づき」を「知識」に結びつける「ふりかえる時間」

「体験学習」では、「ふりかえる時間」という活動後に行う思考過程が重要です。これにはいくつかの段階があります。

1step 活動で、「どんなことが起こったのか」、「気がついたことは何か」を明らかにします。

2step 1 stepで明らかにしたことの意味を考えます。「なぜ起こったのか」といった理由であったり、その時の自分の気持ちであったりします。

3step 2 stepで考えたこと・発見したことを、これまでの自分が持つ経験や知識と結び合わせて、「なるほど、こういうことか」、あるいは、「今度はこうしたらどうだろう」ということを考えることにより、新しい知識や考え方・見方を獲得します。

④ 「わかちあい」で「気がついたこと」を深める・広める

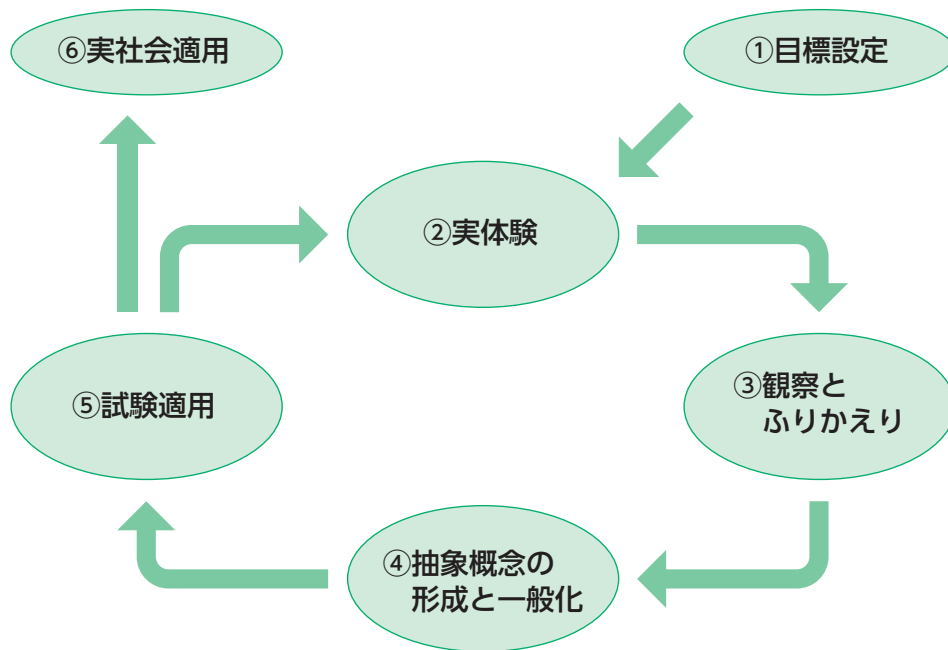
「体験学習」をグループで行う場合、「話し合う時間」で気がついたことや考えを話し合う「分かちあい」を行うことが効果的です。

仲間の意見を聞くことで、自分では気がつかなかったことを知ったり、仲間の意見に触発されて、自分の考えが深まったりします。

3) 体験学習サイクル

何らかの体験をすれば、そのことだけで、学習したとするものではない。「体験学習法」とは、今ここでの体験によっての気づきにこだわり、さらにはともに体験して、気づいたこと、感じたことをわかちあい、その解釈から、学びを深めて次の行動へと生かしていく循環過程として、構造化される教育方法である。『野外教育指導者読本』（平成11年 野外教育指導研究会）引用

この「循環過程」を「体験学習サイクル」と呼びます。いくつかのパターンがありますが、山口徳地自然の家が「協調性をはぐくむプログラム」で取り入れている「体験学習サイクル」をご紹介します。



- ①**目標設定**…グループで活動する上での達成目標を設定する。
- ②**実体験**…実際に活動する。
- ③**観察とふりかえり**…活動中に「何が起こったか」をふりかえり、グループ間でわかちあう。
- ④**抽象概念の形成と一般化**…「なぜ起こったのか」、その理由を考える。
- ⑤**試験適用**…次の活動に活かすことを考え、試行する。
- ⑥**実社会適用**…学校生活など、日常生活に活かすことを考え、実行する。

2. プログラムの企画・立案

(1) プログラムとは

1) プログラムの意味

「プログラム」という言葉も様々な意味で用いられています。本ガイドブックでは、「学習目的を達成するために、複数の体験活動を組み合わせたもの」とします。

下図は、「協調性をはぐくむ」という「目的」を達成するために、「登山」「野外炊事」「沢登り」という「体験活動」を組合せた1泊2日の「プログラム」です。

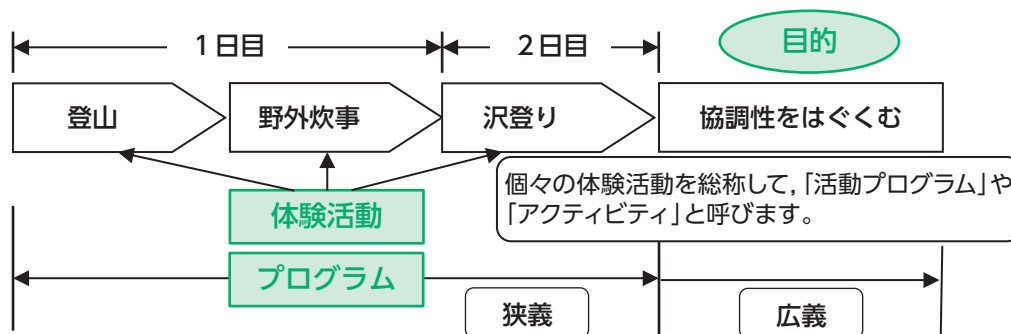
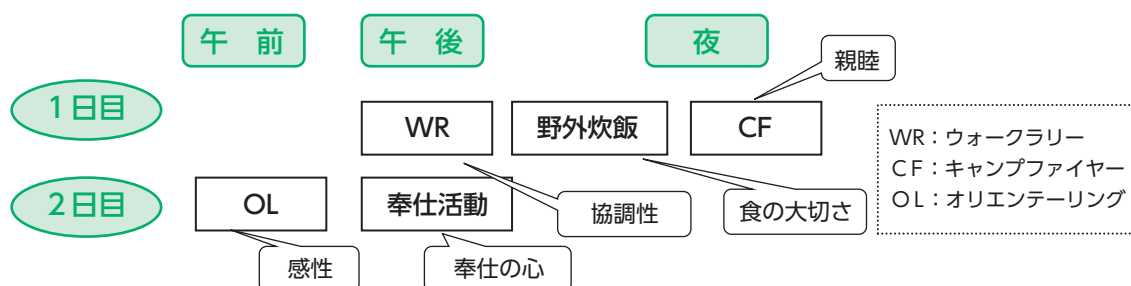


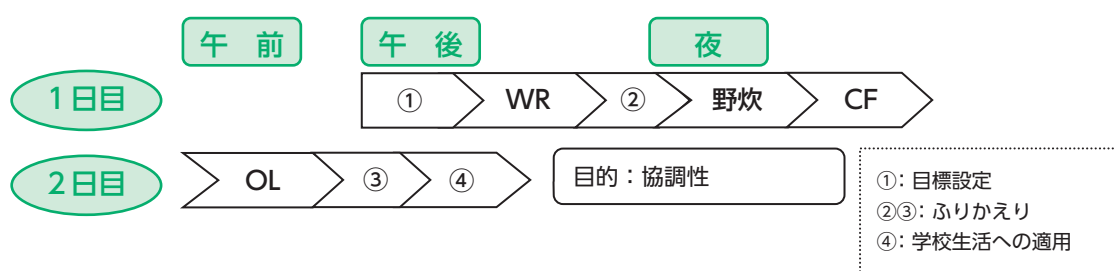
図 プログラムとは

2) プログラムの例

【プログラムA】



【プログラムB】



プログラムAは、1泊2日の日程に、たくさんの目的と活動が組み込まれています。

それに対して、プログラムBは、「協調性」という1つの目的に対して、いくつかの活動が組み合わされています。

プログラムAの特徴は、たくさんの活動ができることです。

それに対して、プログラムBは、いくつもの活動はできませんが、目的の達成度を高めることが期待できます。

大事なことは、プログラムを企画する者が、目的を明確にし、目的を達成するための最適な活動を選択することです。

(2) プログラムの企画・立案の手順

山口徳地自然の家で集団研修を実施することを想定した、企画・立案の手順の一例を提示します。

条件の整理・確認

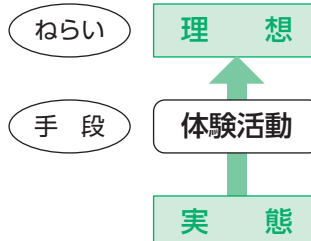
- ・ 予め設定されている条件（与件ともいえます）を整理・確認します。
- ・ 例えば、引率者の人数・経験・スキル、予算、到着可能時刻など。
- ・ 前年度実施しているのであれば、申し送り事項などを確認します。

指導者の思い

- ・ 参加者（子どもたち）に、どんな力をつけさせたいのか、どんな体験をさせたいのか、漠然としていても構わないので、考えてみましょう。

目的の追究

- ・ 思いを一步、深めてみましょう。
- ・ 学級・学校・チームの理想とする姿は、どのような姿でしょうか。
- ・ それに対する実態はどうでしょうか。
- ・ 実態を理想に近づけるために行うのが体験活動です。
- ・ どんな体験活動がよいでしょうか。



目的の設定

- ・ 目的を明確にします。文章で表してみましょう。
- ・ 目的が複数ある場合は、優先順位をつけたり、焦点化したりしましょう。

目標の設定

- ・ 目的を具体化して、「目標」として、文章で表してみましょう。

情報の収集

- ・ 山口徳地自然の家で、どんなことができるのかを確認します。

☐ 内容・活動（どんなことができるか。所要時間。必要な道具 等）

☐ 施設・設備（何が、いくつあるか 等）

☐ 指導者（誰が指導するのか。どんな指導を受けられるのか 等）

☐ 安全管理体制（実施判断基準、緊急時の対応 等）

プログラム化

- ・ 活動プログラムを決め、効果的に配置し、日程を決めます。
- ・ 学校の集団宿泊活動の場合、教育課程との関連を検討します。

全体計画の作成

- ・ 指導体制、安全管理体制、事前・事後指導など、全体の実施計画を作成します。

<プログラム相談>

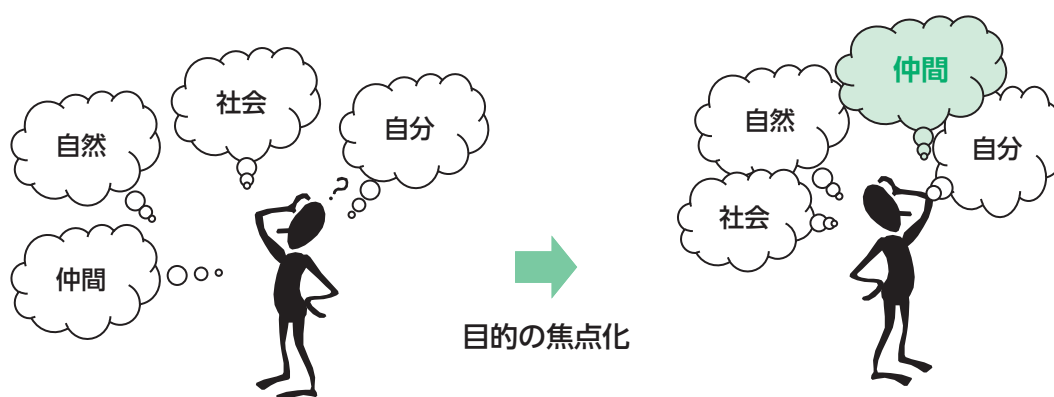
- ・ 山口徳地自然の家では、利用団体の皆様がプログラムを企画・立案する際に、必要な情報を提供したり、助言を行ったりするプログラム相談を行っていますので、ご活用ください。

(3) プログラムの企画・立案のポイント

1) 目的を焦点化する

集団宿泊活動のねらいを、「自然教室を通じて、自然に親しむ心情や仲間を思いやる気持ちなど豊かな心を育てるとともに、困難な活動をやりきること達成感を味わい自信を持つなど自己肯定感を高める。また、学級・学年の凝集性を高める」と設定したとします。

どれも、集団宿泊活動の持つ教育効果を表しています。しかし、限られた日程で教育効果を高めるためには、「あれもこれも」よりも、「これは」というように焦点化することが有効です。どれか一つに絞るというだけではなく、主目的と副次的な目的というように優先順位をつけることでもよいでしょう。



2) 目的に応じた「活動」(内容) を選択する

目的を達成するために、効果的な活動プログラムを選びます。例えば、下図のように、同じ目的であっても、複数の活動プログラムを想定することができます。

そこで、質問を一つ。「登山を計画していますが、雨天プログラムは何にしますか」。

実際には、屋内でできる焼き板などの創作活動を実施されることが多く見受けられます。しかし、目的に応じた活動プログラムを選択するという視点で考えると、目的が「自然に親しむ」ならば、「創作活動」でよいのですが、「協調性をはぐくむ」が目的ならば適当とはいえません（ただし、焼き板を協力してやるのならば別です）。

「自然に親しむ」という目的であれば、（危険度が低い範囲で）雨の中で過ごし、雨のにおいをかいだり、雨にけむる景色を見たり、雨水が樹木をつたって落ちる様子を観察したりといったことも考えられます。

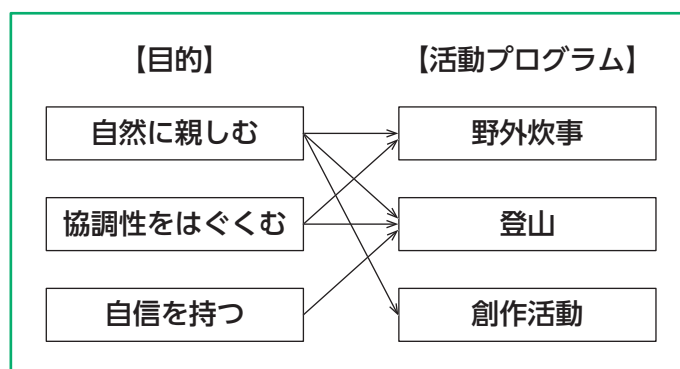


図 目的と活動プログラム

3) 目的に応じた「指導方法」(やり方)を選択する

図の「野外炊事」には、「自然に親しむ」と「協調性をはぐくむ」という2つの目的が想定されています。同じ活動プログラムでありながら目的が異なるということは、「指導方法」(やり方)を選択(工夫)しなければならないということになります。

ケース1「自然に親しむ」ことを目的とした野外炊事の指導方法(やり方)の例

- ①使用する水の量を少なくするように工夫させる。例えば、水道を使わずにペットボトルに入れた水を渡し、何リットル使ったかを量る。
- ②野菜の皮や残ったご飯の量を量る。

ケース2「協調性をはぐくむ」ことを目的とした野外炊事の指導方法(やり方)の例

- ①グループで目標を立てる。
- ②野外炊事の後に、目標をどの程度達成できたか、その要因などを話し合う時間を設定する。
- ③ご飯をつくることが目的ではなく、グループでどうやってつくったか。つくる過程で、グループの中で起こっていたことが重要になります。

4) ストーリーをつくる

プログラムを立案する上で、重要なことの一つに「ストーリー」をつくることがあります。参加者(プログラムを実施する者)の「やらされ感」を軽減し、参加動機を高めたり学習目的を達成したりするために必要なことです。

- ① 難易度(技術に加え、精神的・身体的な負荷)の低い活動プログラムから、高い活動プログラムへ
- ② 楽しい活動プログラムから、課題を解決する活動プログラムへ
- ③ 全体で実施する活動プログラムから、グループや個人で実施する活動プログラムへ
- ④ 課題を解決する活動プログラムから、活動を通して発見したことや学んだことをまとめる活動プログラムへ
- ⑤ 活動プログラムの成果や課題を、次の活動プログラムに活かす など

5) 時間的なゆとりを持たせる

活動時間を予め設定することは必要です。しかし、余裕を持った日程にしないと、時間に追われ、参加者(子どもたち)を追い立てることになってしまいます。

「協調性をはぐくむ」ことを目的とした野外炊事であれば、参加者が、試行錯誤したり失敗したり、トラブルを解決する話し合いの時間を持ったりすることができるようゆとりある時間設定が必要になるということです。時間が足りずに、指導者が手伝って出来上がった食事より、苦労して自分たちでつくった食事の方が、喜びや達成感が大きいでしょう。



3. 体験活動の指導

(1) 山口徳地自然の家の指導の種類と内容

1) 直接指導と間接指導

- ① 直接指導～山口徳地自然の家の職員等が、参加者（子どもたち）に指導すること。
- ② 間接指導～山口徳地自然の家職員が、引率者に説明・助言を行うこと（山口徳地自然の家職員が、引率者を通して、参加者に指導しているという考えでの呼称）。

2) 直接指導の内容

- ① 入所時のオリエンテーション～活動意欲を高めることや特に留意する安全事項。
また、必要に応じて、施設の使い方やルールなどを伝えます（事前に引率者に説明希望の有無を確認します）。
- ② 活動プログラムの指導～活動前に、技術的な指導、ルール（方法）の説明、安全指導を行います。
- ③ グループ活動の指導～グループに職員等がついて指導します（指導する職員等の人数など、いくつかの条件があるので、事前にご確認ください）。

3) 間接指導の内容

- ① プログラム相談～プログラム立案に際して、情報を提供したり助言したりします。予約が必要です。遠慮なくお申し込みください。
- ② 活動プログラムの体験～実施する活動プログラムを体験することができ、職員が指導にあたります。予約が必要です。遠慮なくお申し込みください。
- ③ 活動前の事前打ち合わせ～実施・中止の判断や進め方について確認します。

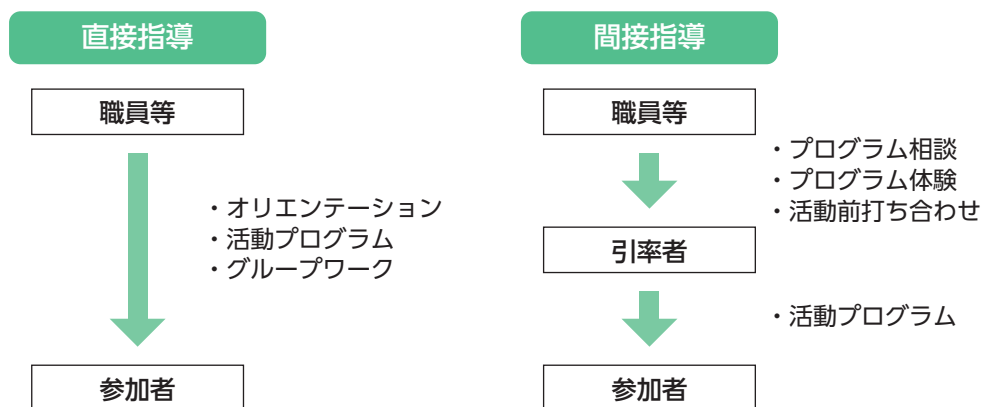


図 直接指導と間接指導

4) 地域の指導者「研修指導員」による指導

山口徳地自然の家では、専門的な知識・技術を有する地域の方を「研修指導員」として委嘱し、利用者への活動プログラムの指導をお願いしています。

指導には経費（交通費・謝金）が必要ですが、一般的な講師謝金と比べると低い金額になっています（皆さん本職をお持ちで、ボランティア的に研修指導員を引き受けていただいています）。

(2) 基本的な指導技術

1) 導者の話し方・聞き方・立つ位置(集合隊形)・服装

- ① 話し方
 - ・分かりやすく。はっきりと。
 - ・元気よく(大きな声を出すばかりでなく、時に小さな声で話すことで、子どもたちの集中力が高まります)。
 - ・短く(野外的場合、屋内に比べ集中力が落ちます)。
 - ・質問形式にするなどの工夫が必要です。
- ② 聞き方
 - ・指導者には、「聴く」(よく聴く)、「訊く」(尋ねる聞き方)力が求められます。
 - ・子どもたちにも聞き方を指導します(例えば、おへそを話し手に向けさせるなどの言い方を工夫。静かになるまで話さないなど)。
- ③ 立つ位置
 - ・子どもたち全員の表情が見える位置。
 - ・斜面に集まる場合は(指導者は)低い位置。
 - ・子どもの目に太陽が入らない位置(日差しが強いときは日陰)。
 - ・子どもたちの風下(風上だと、子どもたちの目にゴミが入る)。
 - ・集合隊形は、指導者を囲む、指導者に対して扇形など、子どもたちが集中するように工夫します。
- ④ 服装
 - ・指導者自身が、野外活動に適した服装をとることはもちろん、身だしなみにも注意します。

2) 言語的なコミュニケーションと非言語的なコミュニケーション

① 指導者に求められる伝え方

指導者は、子どもたちに、言葉を使って指導や説明などを行います(言語的なコミュニケーション)。

しかし、言葉と共に、子どもたちに伝わっているものがあります。指導者の気持ち・思い・熱意といったものです。これらは、話し方に表れます。声のトーンや大きさ、テンポ、指導者の表情、身振り・手振り、服装や姿勢などに留意することが必要です(これらを、非言語的なコミュニケーションといいます)。

② 子どもたちからのサインを見落とさない

非言語的なコミュニケーションは、子どもたちからも発せられます。

指導者は、子どもたちの表情や動きから、子どもたちの状態を察知し対応することが必要です。

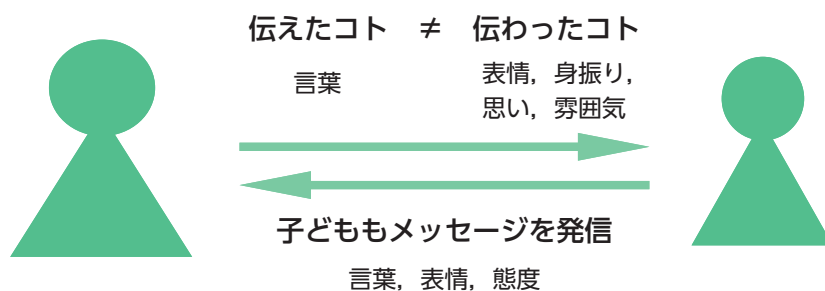


図 コミュニケーション

(3) 目的に応じた指導

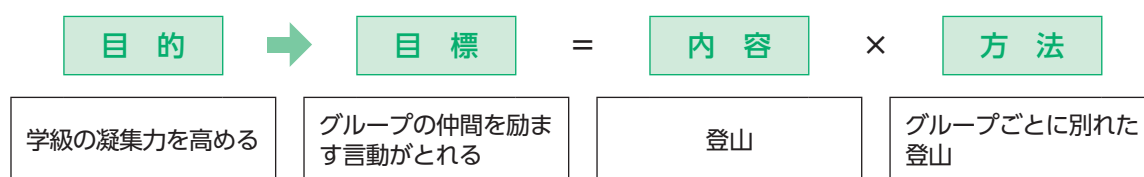
体験活動は、学習目的を達成するために、意図的・計画的に提供する体験であること、また、目的によって、同じ活動であっても指導方法が異なることを、前の項で説明しました。つまり、指導者が設定する「目的」を達成するためには、何をするかといった「活動内容」と併せて、どうやってするかといった「指導方法」を考えることが必要ということです。以下に、指導例を示します。

$$\boxed{\text{目的（達成）}} = \boxed{\text{（活動） 内容}} \times \boxed{\text{（指導） 方法}}$$

例1「協力することの重要性を体感する指導」

子どもたちは、「学級やチームは協力することが大切」ということを、知識として知っているでしょう。しかしながら、協力してやりとげた達成感を味わうという体験がないと、真の意味で理解していることにならないのではないのでしょうか。

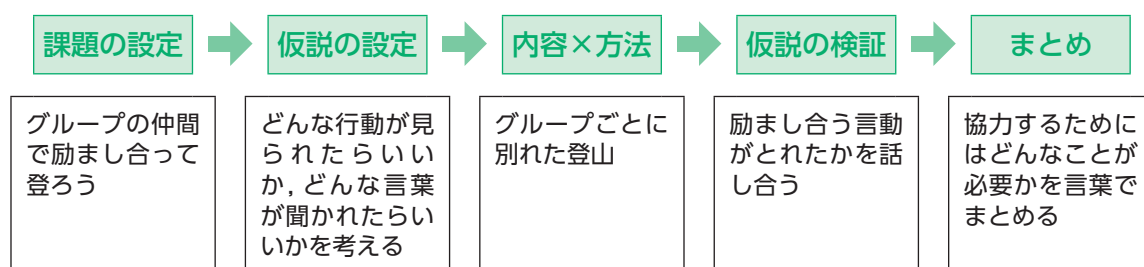
学級の凝集力を高めるために、先ず、グループ（班）の中で励まし合う言葉や行動がとれるようになることを目指す。そのために、登山を、学年一斉ではなく、グループで登るという方法をとる。頂上に立ったとき、下山しゴールに着いたとき、子どもたちは困難なことを、協力してやりとげた達成感を味わうことができるでしょう。



例2「協力するために必要なコトを探究する指導」

協力することの重要性を体感する指導を一步進め、協力するにはどうしたらよいか、どんなことが必要かを、子どもたちが探究する指導が考えられます。

課題（目標）を設定し、これを意識して活動を行う。そして、活動後に、課題について話し合い、まとめるという指導方法です。



学習指導要領では、「（前略）自然体験や社会体験などの体験活動を充実するとともに、体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動を充実するよう工夫すること」（特別活動「学校行事」）と提示されています。上図の仮説の検証以降が、振り返り・まとめに当たります。

(4) 指導者に求められる様々な役割

目的に応じた指導方法があるように、指導方法に応じた指導者の役割があります。

1) 「教える」指導

薪を割るナタの使い方は、指導者が教えます。何も教えないで、参加者にやらせたらケガをするリスクが高くなります。このように、野外技術、安全指導、活動プログラムのやり方やルールといったことは、指導者が参加者に教えます。

指導者が一方的に伝えるのではなく、参加者（子ども）に質問し、参加者に考えさせながら伝えるといった方法も考えられます。

2) 「促す」指導

参加者が自ら発見したり気がついたりするような教え方もあります。指導者が教えるのではなく、発問することによって、参加者が考えることを促すという方法です。

例えば、「協調性を育む」ことを目的とした野外炊事の場合、薪の割り方は教えますが、協力の仕方は教えません。ということが協力することになるのかを、参加者が発見するように促す指導を行います。野外炊事の後に、活動を振り返る時間を設け、指導者が参加者に、「仲間からかけてもらって嬉しかった言葉はありますか」「やってもらって嬉しかったことはありますか」というように質問し、参加者が自ら考えつくような指導です。

3) 場面によって役割を使い分ける

体験活動の指導には、前述した「教える」「促す」の両方が求められます。場面（目的や内容）に応じて、使い分けることが必要です。

子どもたちが、どうやったらできるかを考えているときに、指導者がそのやり方（答え）を教えるは台無しです。時間がかかったとしても、答えを導き出すことができなかったとしても、指導者には待つ・見守ることが求められます。

4) 「見える」ことと「見えない」こと

体験活動の指導では、「見えること」（結果）と「見えないこと」（過程）という考えがあり、指導者には、「見えないこと」を重視することが求められます。

オリエンテーリング（以下「OL」という。）を例にしましょう。グループが獲得した得点や順位など、結果は見えます。一方、グループがどうやってOLに取り組んだのか「過程」は見えません。協調性を育むことを目的とした場合、廻るポストの順番を決める話し合いやOL中に起こっていた言動に焦点を当て、考えさせる指導が必要ということです。

